



令和2年度  
インクルーシブ教育システムプロジェクト  
研究成果報告書

冊子『青森県の先生の「困った」を「よかった」に変える  
支援ヒント集【改訂版】』を活用した校内研修モデルの開発

令和3年3月

青森県総合学校教育センター

# 目次

I	研究テーマ設定の理由と目的	2
II	研究方法	3
	1 校内研修モデルの検討	
	2 校内研修モデルの検証	
III	取組の結果	5
	1 作成した校内研修モデル	
	2 検証結果	
	3 校内研修モデルの普及に向けた取組	
IV	考察	9
	1 研修内容の理解度について	
	2 指導・支援への参考度について	
	3 継続的な研修の実施について	
	4 今後の展望	
	謝辞	
	資料	11
	1 事後アンケート用紙	
	2-1～2-4 小学校 校内研修モデル	
	3-1～3-4 中学校 校内研修モデル	
	4-1～4-3 高等学校 校内研修モデル	
	5 広報用リーフレット	

# I 研究テーマ設定の理由と目的

平成 29 年に告示された小学校（中学校）学習指導要領の解説「総則編」及び平成 30 年に告示された高等学校学習指導要領の解説「総則編」において、「通常の学級（高等学校等）にも、障害のある児童（生徒）のみならず、教育上特別の支援を必要とする児童（生徒）が在籍している可能性があることを前提に、全ての教職員が特別支援教育の目的や意義について十分に理解することが不可欠である。」と指摘されているなど、小・中学校及び高等学校における特別支援教育についての専門性の確保が喫緊の課題となっている。独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2018）は、小学校、中学校及び高等学校への訪問調査の結果から、特別支援教育やインクルーシブ教育システムを直接テーマにしてフォーマルな校内研修を実施している学校が少なく、その理由として学校現場の多忙化等を指摘した。一方で、学習指導案の作成の工夫や、学校共通の「スタンダード」の作成など、特別支援教育やインクルーシブ教育システムの視点で、日常の教育活動を充実させようとする取組が見られたことから、このような取組も「新しい研修」のスタイルとして位置付けることを提言している。

このことから、これからの校内研修の在り方を考える上で、「特別支援教育やインクルーシブ教育システムの視点を取り入れた教育活動の日常化」が重要なポイントであると考えられる。即ち、特別な教育的ニーズのある児童生徒への日常的な指導・支援につながるような校内研修が求められているとともに、指導・支援に取り組んだ結果が次の校内研修や校内委員会等に反映される、というように、従来の知識伝達型の研修から O J T（On the Job Training）による日常のかつ組織的な研修への転換が迫られている。その具現化に取り組んだ古川（2020a、2020b）は、特別支援教育の視点による校内研修→実践（実態把握含む）→発展的な内容の校内研修→実践（実態把握含む）→…、というサイクルを繰り返す、組織的な課題解決型の研修を提案している。

以上のことを踏まえ、本研究では、小・中学校及び高等学校における特別な教育的ニーズのある児童生徒への組織的な指導・支援につなげる校内研修モデルを開発することを目的とした。本モデルを活用した校内研修が広がることで、県内の小・中学校及び高等学校における日常的な特別支援教育の推進を図りたいと考える。それをもって、インクルーシブ教育システムの理解促進を目指す。

なお、本研究で開発する校内研修モデルでは、令和元年度インクルーシブ教育システムプロジェクトの研究成果物である、冊子『青森県の先生の「困った」を「よかった」に変える支援ヒント集【改訂版】』（以下、「支援ヒント集」という。）を資料として活用することとした。

## 文献

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（2018）：地域実践研究「インクルーシブ教育システム構築に向けた研修に関する研究（平成 28 年度～平成 29 年度）研究成果報告書」。

古川和史（2020a）：多様性の理解を組織的に進める校内研修～特別支援教育に関わるこれまでの取組から新たな研修へ～。特別支援教育研究，No. 758，32-35。東洋館出版社。

古川和史（2020b）：多様性の理解を組織的に進める校内研修～2 サイクルの研修による成果から学校力へ～。特別支援教育研究，No. 759，32-35。東洋館出版社。

## Ⅱ 研究方法

### 1 校内研修モデルの検討

#### (1) 検討メンバー

検討メンバーは、当センターの課長1名、指導主事8名、研究員5名の計14名であった。これまでの勤務経験を基に、小学校チーム、中学校チーム、高等学校チームの3チームに分かれて検討を行った。

#### (2) 検討の流れ

- ① 支援ヒント集の内容を確認する。【チーム作業】
- ② 各校種における支援ヒント集活用上の課題を検討する。【チーム作業】
- ③ 上記課題を踏まえた校内研修モデルを検討する。【チーム作業】
  - ・校内研修の実実施計画作成時に使える「プランシート」
  - ・講義や演習の説明時に使える「スライド資料」
  - ・演習で意見を出し合うときに使う「ワークシート」
- ④ 作成した校内研修モデルを全体で共有し、修正作業を行う。【全体】

### 2 校内研修モデルの検証

#### (1) 小学校での検証活動

校内研修等講師派遣事業に申し込んだA小学校（教員10名）及びB小学校（教員7名）において、本研究の趣旨を説明した上で了承を得て、校内研修モデルの検証を行った。両校とも小規模校で、夏季休業中の全校での校内研修であった。

同プロジェクト研究のメンバーである、特別支援教育課の指導主事1名が訪問し、講師を担当した。研修内容は、前述の研修モデルを基に、一部内容を対象校のニーズに応じてアレンジした上で実施した。

#### (2) 中学校での検証活動

校内研修等講師派遣事業に申し込んだC中学校（教員11名）及びD中学校（教員11名）において、本研究の趣旨を説明した上で了承を得て、校内研修モデルの検証を行った。両校とも小規模校で、夏季休業中の全校での校内研修であった。

同プロジェクト研究のメンバーである、特別支援教育課の指導主事1名が訪問し、講師を担当した。研修内容は、前述の研修モデルを基に、一部内容を対象校のニーズに応じてアレンジした上で実施した。

#### (3) 高等学校での検証活動

当センターにおける研修講座において、高等学校教員39名（教職経験の浅い教員）を対象として、校内研修モデル（ステップ1）を用いた講義・演習を行い、事後アンケートを実施した。同プロジェクト研究のメンバーである、特別支援教育課の指導主事1名が講師を担当した。

#### (4) 事後アンケート（資料1）

事後アンケートでは、「(1)今回の研修内容（演習・協議の部分）について理解できた」、「(2)今

回学んだことは、明日からの指導に役立つと思う」、「(3)今回のような研修内容であれば、校内で継続的に実施できそうだ」、「(4)今後も支援ヒント集を活用していきたい」という質問について4件法で回答を求めた。また、「その他、今回の研修を通して気付いたことや感じたこと」について自由記述で回答を求めた。

## Ⅲ 取組の結果

### 1 作成した校内研修モデル

作成した校内研修モデルの総称を「“これから”の特別支援教育推進校内研修モデル」とした。具体的な実施内容・方法は、校種毎に以下に示す。

#### (1) 小学校チーム「気になる〇〇さんについてみんなで考えよう」

- ① プランシート  
資料2-1参照。
- ② スライド資料「進行用」  
資料2-2参照。
- ③ ワークシート①「気付いちゃったシート」  
資料2-3参照。
- ④ ワークシート②「みんなで共有シート」  
資料2-4参照。

#### (2) 中学校チーム「学年を越えたチームで効果的な支援を考えよう」

- ① プランシート  
資料3-1参照。
- ② スライド資料①「進行用」  
資料3-2参照
- ③ スライド資料②「講義用」  
資料3-3参照。
- ④ ワークシート「KPTシート」  
資料3-4参照。

#### (3) 高等学校チーム「組織的支援につなげよう」

- ① プランシート  
資料4-1参照。
- ② スライド資料「進行用」  
資料4-2参照。
- ③ ワークシート「KPTシート」  
資料4-3参照。

### 2 検証結果

#### (1) 小学校対象の校内研修モデル

事後アンケートは、計17名から回答が得られた。以下に、質問項目毎の結果を示す。

- ① 今回の研修内容（演習・協議の部分）について理解できたか  
「非常にそう思う」15名（88%）、「ややそう思う」2名（12%）、「あまりそう思わない」0名、「全くそう思わない」0名であった。

- ② 今回学んだことは、明日からの指導に役立つと思うか  
「非常にそう思う」15名(88%)、「ややそう思う」2名(12%)、「あまりそう思わない」0名、「全くそう思わない」0名であった。
- ③ 今回のような研修内容であれば、校内で継続的に実施できそうか  
「非常にそう思う」13名(76%)、「ややそう思う」4名(24%)、「あまりそう思わない」0名、「全くそう思わない」0名であった。
- ④ 今後も支援ヒント集を活用していきたいか  
「非常にそう思う」15名(88%)、「ややそう思う」2名(12%)、「あまりそう思わない」0名、「全くそう思わない」0名であった。
- ⑤ 今回の研修を通して気付いたことや感じたこと(自由記述)  
17名から回答が得られた。その一部を以下に示す。
- ・他の先生方と一緒に、その子のために支援をしているのだ、ということを改めて感じた。自分の気付いていない支援の方法やその子の様子を考えられて良かったと思う。
  - ・担任以外の視点で対象の児童を見ると、様々な手立てが出てくるなど改めて感じた。
  - ・研修の仕方を学びました。特に演習でやった「〇〇さんに考えてみよう」は、校内研や生徒指導会議でもできると思った。このようにして、全職員で知恵を出し合い、学び合っていけると、特別支援教育も進んでいくと思った。
  - ・「原因を探る」という部分は自分には弱いと感じた。どうしても、対処の方が強くなる。原因、要因の部分に目を向けて、今後実践していきたいと思う。すべての子供に応用できるヒントをたくさんいただいた。

## (2) 中学校対象の校内研修モデル

事後アンケートは、計22名から回答が得られた。以下に、質問項目毎の結果を示す。

- ① 今回の研修内容(演習・協議の部分)について理解できたか  
「非常にそう思う」20名(91%)、「ややそう思う」2名(9%)、「あまりそう思わない」0名、「全くそう思わない」0名であった。
- ② 今回学んだことは、明日からの指導に役立つと思うか  
「非常にそう思う」20名(91%)、「ややそう思う」2名(9%)、「あまりそう思わない」0名、「全くそう思わない」0名であった。
- ③ 今回のような研修内容であれば、校内で継続的に実施できそうか  
「非常にそう思う」19名(86%)、「ややそう思う」3名(14%)、「あまりそう思わない」0名、「全くそう思わない」0名であった。
- ④ 今後も支援ヒント集を活用していきたいか  
「非常にそう思う」20名(91%)、「ややそう思う」2名(9%)、「あまりそう思わない」0名、「全くそう思わない」0名であった。
- ⑤ 今回の研修を通して気付いたことや感じたこと(自由記述)  
18名から回答が得られた。その一部を以下に示す。
- ・言葉かけや発想の転換で生徒に対して気持ちも変わるし、見えないことも見えてくるんだということに気が付くことができた。

- ・様々な行動には理由があり、それに対してアプローチの仕方が多様にあるということが分かった。今後の指導に生かしていきたいと思う。
- ・こういう時はどういう発信・働きかけ・提案がよいかを具体的に質問し合える（シミュレーション）なども校内委員会でやっていきたいと思う。
- ・集団の中で、周りとの違いを感じながら対応の仕方が分からずに不安な状況に置かれていることがとても良く分かった。自分にできることを少しずつ毎日実践していきたいと思った。

### (3) 高等学校対象の校内研修モデル

事後アンケートは、計 39 名から回答が得られた。以下に、質問項目毎の結果を示す。

- ① 今回の研修内容（演習・協議の部分）について理解できたか  
「非常にそう思う」34名（87%）、「ややそう思う」5名（13%）、「あまりそう思わない」0名、「全くそう思わない」0名であった。
- ② 今回学んだことは、明日からの指導に役立つと思うか  
「非常にそう思う」28名（72%）、「ややそう思う」11名（28%）、「あまりそう思わない」0名、「全くそう思わない」0名であった。
- ③ 今回のような研修内容であれば、校内で継続的に実施できそうか  
「非常にそう思う」18名（46%）、「ややそう思う」21名（54%）、「あまりそう思わない」0名、「全くそう思わない」0名であった。
- ④ 今後も支援ヒント集を活用していきたいか  
「非常にそう思う」33名（85%）、「ややそう思う」5名（13%）、「あまりそう思わない」1名（3%）、「全くそう思わない」0名であった。
- ⑤ 今回の研修を通して気付いたことや感じたこと（自由記述）  
20名から回答が得られた。その一部を以下に示す。
  - ・支援ヒント集があると、困ったときに心強い。また、あらかじめ目を通しておくことでいざという時に少し心の準備ができていけると思うので、あとで指導に関して後悔することも少なくなりそうだと思った。
  - ・課題の提出についても教職員間での情報共有などの連携が必要であると感じた。
  - ・合理的配慮が必要な生徒がいるという実態を他の生徒にも理解してほしいと感じた。授業の中で、共生社会の重要性を生徒に伝えていきたいと思う。
  - ・1人で対応するわけではなく、チームで支援することが大事だとわかった。

## 3 校内研修モデルの普及に向けた取組

### (1) 広報用リーフレットの作成


校内研修モデルの概要を紹介するリーフレット（資料5）を作成し、次年度以降の普及活動に生かせるようにした。

### (2) ホームページでの情報提供

当センターのホームページ内に、校内研修モデルを掲載する特設ページを作成した（図1）。各研修モデルの「プランシート」、「スライド資料」、「ワークシート」を自由にダウンロードして、即活用できるようにした。また、学校の研修ニーズに応じてアレンジできるように、いずれもPDFファイル



だけでなく、Word等のファイルも掲載した。



**青森県総合学校教育センター**  
Aomori Prefectural School Education Center

〒030-8523 青森県大学元町字野田 66-2  
 電話 017-764-1997 / FAX 017-728-6331

## 「これから」の特別支援教育推進校内研修モデル



(小学校・中学校・高等学校)

青森県総合学校教育センター  
インクルーシブ教育システムプロジェクト  
(令和3年3月)

---

**どんな校内研修モデル？**

青森県総合学校教育センターのプロジェクト研究「インクルーシブ教育システムプロジェクト」では、令和2年3月に『異業種の先生の間でよかったに覚える支援ヒント集【改訂版】』（以下、「支援ヒント集」と書きます。）を発行しました。

※こちらのページからダウンロードできます。

『支援ヒント集』をご覧いただいた先生方の中には、もしかしたら、次のように感じられた先生方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

「こういう特別支援教育関係の資料って、他の先生方に紹介するだけだと、なかなか實際の支援にはつながらないんだよなあ...」

「校内研修でうまく活用したいけれども、一から企画する時間は作れないしなあ...」

このような学校現場の声を踏まえ、本プロジェクト研究（令和2年度）では、小学校や中学校、高等学校の実態を踏まえ、『支援ヒント集』を活用した校内研修モデルを考案しました。気になる児童生徒への支援方法を組織的に検討する際に役立つ研修ですので、夏季休業中の校内研修等でぜひご活用ください！

※研修内容を記載しているブラッシュアップ資料、説明用スライド資料、ワークシートは、ご自由にダウンロードして、調整各校でアレンジしてご活用ください。

🎯 小学校対象

---

「気になる〇〇さんについてみんなで考えよう」

時間 45分

ブラッシュアップ資料 Word / PDF

スライド「進行用」 PPT / PDF

ワークシート①「気づいちゃったシート」 Word / PDF

ワークシート②「みんなで共有シート」 Word / PDF

---

🎯 中学校対象

---

「学年を越えたチームで効果的な支援を考えよう」

時間 90分（又は60分）

ブラッシュアップ資料 Word / PDF

スライド①「進行用」 PPT / PDF

スライド②「講義用」 PPT / PDF

ワークシート Excel / PDF

---

🎯 高等学校対象

---

「組織的支援につなげよう」

時間 20分～30分  
(ステップ1：30分、ステップ2：25分、ステップ3：25分)

ブラッシュアップ資料 Word / PDF

スライド「進行用」 PPT / PDF

ワークシート Excel / PDF

図1 「“これから”の特別支援教育推進校内研修モデル」掲載ページ

[http://ts.edu-c.pref.aomori.jp/index.php?page\\_id=20](http://ts.edu-c.pref.aomori.jp/index.php?page_id=20)

## IV 考察

本研究では、冊子『青森県の先生の「困った」を「よかった」に変える支援ヒント集【改訂版】』を活用して、特別な教育的ニーズのある児童生徒への組織的な指導・支援につなげる校内研修モデルを開発し、計5回の検証活動を行った上で、研究成果物である校内研修モデルを当センターのWebページに掲載した。本章では、検証結果から校内研修モデルの有効性や課題について述べる。

### 1 研修内容の理解度について

「今回の研修内容（演習・協議の部分）について理解できたか」という質問項目について、約9割の教員が「非常にそう思う」と回答した（小学校88%、中学校91%、高等学校87%）。校内研修モデルは、特別支援教育における専門的なアセスメント方法や指導技法等に関する講義中心の研修ではなく、対象児童生徒を焦点化した演習・協議が中心であるため、理解しやすかったのではないかと考える。この理解のしやすさは、参加教員の主体的な学びにつながり、「言葉かけや発想の転換で生徒に対して気持ちも変わるし、見えないことも見えてくるんだということに気が付くことができた。」等の感想から、新たな気付きを生むことができる可能性も示唆された。

### 2 指導・支援への参考度について

「今回学んだことは、明日からの指導に役立つと思うか」という質問項目については、小・中学校では約9割の教員が「非常にそう思う」と回答した（小学校88%、中学校91%）。「様々な行動には理由があり、それに対してアプローチの仕方が多様にあるということが分かった。今後の指導に生かしていきたいと思う。」等の感想から、明日からの指導に役立つだけでなく、実践意欲を喚起する効果もあることが示唆された。

一方、同様の回答をした高等学校教員は72%で、小・中学校に比べると低い割合であった。これは、高等学校の校内研修モデルの検討対象が教職経験の浅い教員であったため、実践イメージをもつのが難しかったことが影響したものと考える。

### 3 継続的な研修の実施について

「今回のような研修内容であれば、校内で継続的に実施できそうか」という質問項目について、「非常にそう思う」と回答した教員が、小学校76%、中学校86%、高等学校46%で、他の質問項目に比べると低い割合であった。本研究では、いずれの検証活動においても指導主事が講師を担当したため、校内の教員だけで継続的に実施できるかがイメージしづらかった可能性がある。しかしながら、「校内委員会でやっていきたいと思う。」といった感想が見られるなど、校内研修だけでなく他の会議等において活用することを前向きに検討している教員もいた。

特別支援教育やインクルーシブ教育システムの視点を取り入れた教育活動の日常化を目指し、支援ヒント集を活用した校内研修をきっかけとして、継続的に研修（フォーマルな校内研修やOJTによる研修）を実施するための工夫や仕組みづくりが重要な課題である。

#### 4 今後の展望

小学校、中学校及び高等学校の教員の8割以上が、今後も支援ヒント集を活用していきたいと回答しており、改めて本冊子の資料価値の高さが確認された。多忙化が深刻な学校現場においては、支援ヒント集のような冊子を読んで自己研修を行うのは容易ではないため、このような冊子の存在を周知するだけでは実際的な活用につなげることが難しい。また、このような情報提供資料は、全国的に教育センターなどで作成されているが、それをどのように活用したら研修効果が高まるのかという検討を行い、報告しているケースはほとんど見られない。

以上のことから、支援ヒント集を資料として活用することを前提とした校内研修モデルの開発とその効果の検証を行った本研究の意義は大きいと考える。

今後、作成したリーフレットを用いて積極的に広報し、校内研修モデルの普及に努めるとともに、引き続き校内研修等講師派遣事業で校内研修モデルへのフィードバックをもらい、本モデルをさらに充実させていきたい。

## 謝辞

結びに、本研究の検証活動にご協力いただいた小学校、中学校及び高等学校の皆様にご心より感謝申し上げます。県内の先生方の「困った」が、この子に出会えて「よかった」に変わることを願って、これから研究成果を一人でも多くの先生方に届けていきたいと思っております。

# 資料



## 校内研修モデルに関するアンケート

青森県総合学校教育センター  
インクルーシブ教育システムプロジェクト

本アンケートは、青森県総合学校教育センターのプロジェクト研究「インクルーシブ教育システムプロジェクト」で検討している校内研修モデルの参考にさせていただきます。研究成果は、当センターのWebサイトや研究会等で発表いたします。その際は、個人や学校等が特定される形での公表は一切行わないことを申し添えます。

1. 以下の質問について、「4:非常にそう思う」、「3:ややそう思う」、「2:あまりそう思わない」、「1:全くそう思わない」のいずれかに○を記入してください。

(1) 今回の研修内容（演習・協議の部分）について理解できた。	4	3	2	1
(2) 今回学んだことは、明日からの指導に役立つと思う。	4	3	2	1
(3) 今回のような研修内容であれば、校内で継続的に実施できそう。	4	3	2	1
(4) 今後も「支援ヒント集」を活用していきたい。	4	3	2	1

2. その他、今回の研修を通して気付いたことや感じたことについて、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。





## 小学校

## 気になる〇〇さんについてみんなで考えよう

1. 目的	時間がない中でも、校内全体で「気になる児童」についての情報を共有して、気になる行動の理由を考えることで、明日から実践できる支援の手立てを考え出す。
2. 対象	教職員
3. 時間	45分
4. 形態	全体（説明）→ グループ（演習・協議）→ 全体（共有） ※グループの分け方：4～5人程度のグループ ※学校規模に応じて、学年またはブロック（上・中・下学年）でグループ編成を行う。
5. 準備物	<input type="checkbox"/> 支援ヒント集 <input type="checkbox"/> 気付いちゃったシート（人数分） ※ダウンロードできます。 <input type="checkbox"/> みんなで共有シート（グループ分） ※ダウンロードできます。 <input type="checkbox"/> 付箋4色（人数分） <input type="checkbox"/> 黒サインペン（人数分） <input type="checkbox"/> 赤マジック（グループ分）

## ■研修前

- 研修会の概要等について、予め会議や紙面等で伝達する。
- 準備物、グループ構成等を決定し、事前に通知する。
- 研修にあたって、事例検討を行う「気になる児童」をグループ毎に予め決めておく。
- 支援ヒント集を各自印刷したり、タブレットPC等にダウンロードしたりして、当日閲覧できるようにしておく。

## ■研修当日

流れ	進め方	留意点等
1 研修の説明 【全体】 (5分)	○会の目的、流れ、時間を確認して、見直しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的は上記「1. 目的」参照</li> <li>○流れは左欄「流れ」参照</li> <li>○グループ内の役割分担を行う（司会者、発表者）。</li> <li>○気付いちゃったシート、みんなで共有シート、支援ヒント集の活用方法を説明する。</li> </ul>

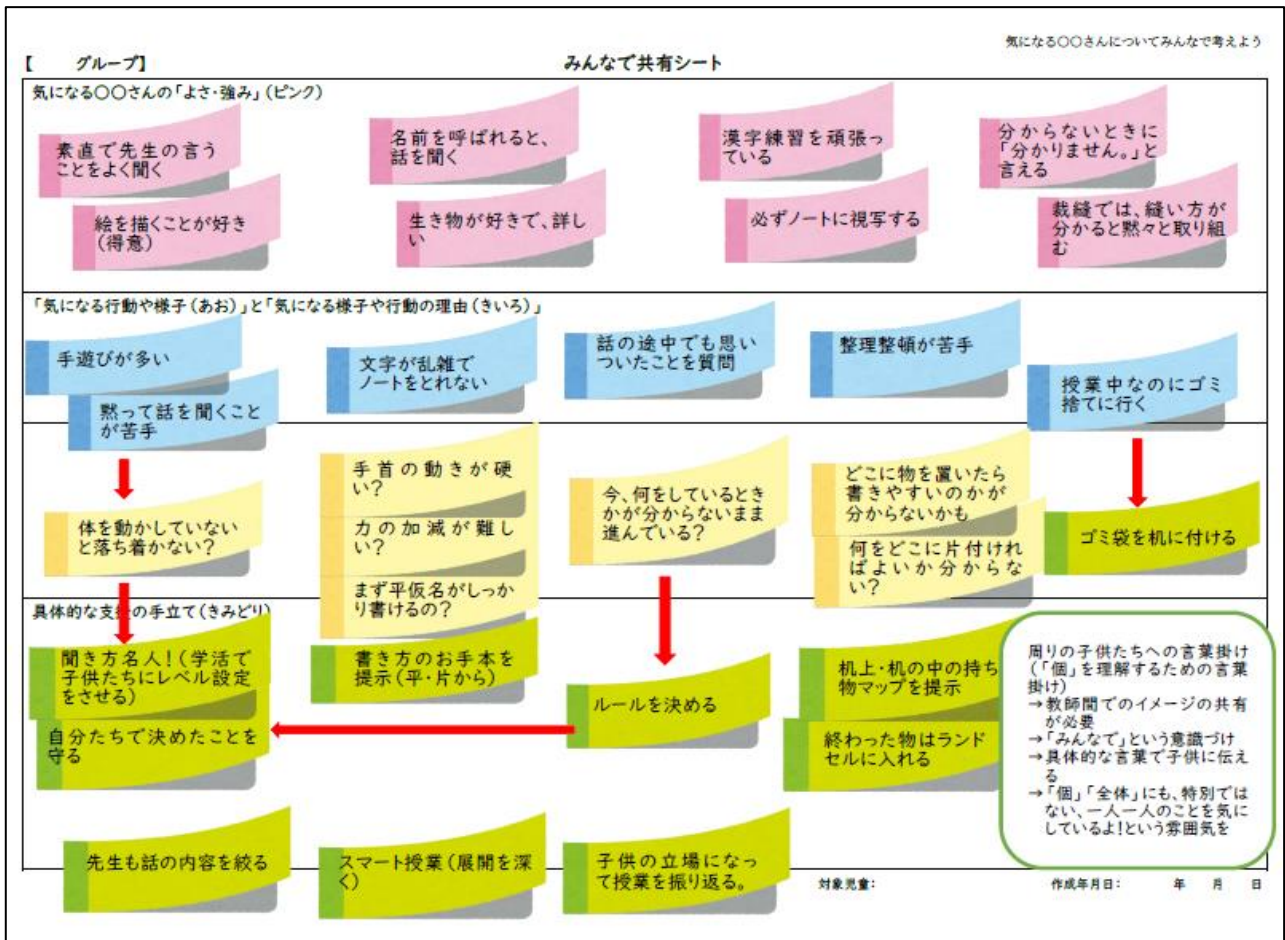
<b>2 演習・協議</b> <b>【グループ】</b>		○司会者の進行のもと、演習・協議を進める。								
①各色の付箋に記入、気付いちゃったシートへの貼付（個人作業） （10分）	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="446 241 606 331"><b>ピンク色</b></td> <td data-bbox="606 241 1474 331">気になる児童のよさ・強み （今できているところ、できそうなところ、芽生えているところ）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="446 331 606 421"><b>青色</b></td> <td data-bbox="606 331 1474 421">気になる行動や様子 （いつ・どこで・どんな行動？ どんな様子？）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="446 421 606 465"><b>黄色</b></td> <td data-bbox="606 421 1474 465">気になる行動や様子の理由</td> </tr> <tr> <td data-bbox="446 465 606 524"><b>黄緑色</b></td> <td data-bbox="606 465 1474 524">気になる行動や様子の理由を踏まえた具体的な支援の手立て</td> </tr> </table>	<b>ピンク色</b>	気になる児童のよさ・強み （今できているところ、できそうなところ、芽生えているところ）	<b>青色</b>	気になる行動や様子 （いつ・どこで・どんな行動？ どんな様子？）	<b>黄色</b>	気になる行動や様子の理由	<b>黄緑色</b>	気になる行動や様子の理由を踏まえた具体的な支援の手立て	
<b>ピンク色</b>	気になる児童のよさ・強み （今できているところ、できそうなところ、芽生えているところ）									
<b>青色</b>	気になる行動や様子 （いつ・どこで・どんな行動？ どんな様子？）									
<b>黄色</b>	気になる行動や様子の理由									
<b>黄緑色</b>	気になる行動や様子の理由を踏まえた具体的な支援の手立て									
②みんなで共有シートに貼付、協議（付箋の分類・整理） （20分）	○各々の考えをグループ内で共有する。	○気になる行動や様子の理由や支援の手立てが思い付かないときは、支援ヒント集を参考にする。 ○気付いちゃったシートに貼付した付箋をみんなで共有シートの該当箇所に一人ずつ貼付していく。その際、付箋の内容を簡潔に説明しながら貼ること。 ○付箋の内容が似ているものは重ねたり分類したりしていく。 ○関連する付箋を矢印でつなぐ（赤マジックを使用）などして、支援の手立てを整理する。								
<b>3 共有【全体】</b> （10分）	○各グループで考え出された支援のアイデアを共有する。 ○気になる児童に対してまず取り組むべきことを確認する。	○発表者がグループで協議したことを発表する。また、演習・協議を通して、新たに気付いたことや考えたことなどを加えてもよい。 ○考え出した支援の手立てについて、取り組む優先順位を決める。								

## ■研修後

- みんなで共有シートをデジタルカメラで撮影し、写真データを保管しておくことで、いつでも振り返ることができるようにする。
- 定期的に取り組の振り返りを行い、記録しておく（例：気付いちゃったシートの裏面を活用）。
- 考え出した支援の手立ての中で、効果があったものは継続して取り組む。
- 効果が見られなかった支援が繰り返されることがないよう、次学年に引き継いでいく。（短期的に効果が見られなくても、長期的には効果が見られることもある。）




# (参考資料) みんなで共有シートの作成例





青森県総合学校教育センター  
「これから」の特別支援教育推進校内研修モデル

# 気になる〇〇さんについて みんなで考えよう



支援ヒント集を  
用意してください♪

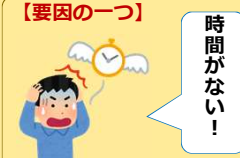
## 小学校におけるケース会議等の課題

### 運営上の問題

ケース会議や児童理解会議が「児童の実態や困った行動の共通理解」で終わってしまうことが多い

↓

**【要因の一つ】**




時間がない!

### ニーズの違い

**学校**


「全校児童のことが知りたい」



↑ ↓

**学級担任**

「明日から実践できる支援の手立てを知りたい」



## 研修の目的

時間がない中でも、校内全体で「気になる児童」についての情報を共有して、気になる行動の理由を考えることで、明日から実践できる支援の手立てを考え出す。

## 研修の流れ

1. 研修の説明【全体】
2. 演習・協議【グループ】
3. 共有【全体】

- ◆ グループ内で司会者と発表者を決める
- ◆ 主に使用するワークシート、資料
  - ・ 気付いちゃったシート
  - ・ みんなで共有シート
  - ・ 支援ヒント集

### 気付いちゃったシート (表面)

気になる〇〇さんについてみんなで考えよう

グループ \_\_\_\_\_

気付いちゃったシート

対象児童(氏名) \_\_\_\_\_ 座席 \_\_\_\_\_

① 気になる〇〇さんの「よき強み」を書き添えよう (ピンク色の付箋に記入)

② 気になる行動や様子(いつどこでどんな行動なのか)を書き添えよう (黄色の付箋に記入)

③ 気になる行動や様子の理由を考えてみよう (黄色の付箋に記入)

④ 支援の手立てを考えてみよう (緑色の付箋に記入)

進捗? ●

### みんなで共有シート

気になる〇〇さんについてみんなで考えよう

【グループ】 \_\_\_\_\_

みんなで共有シート

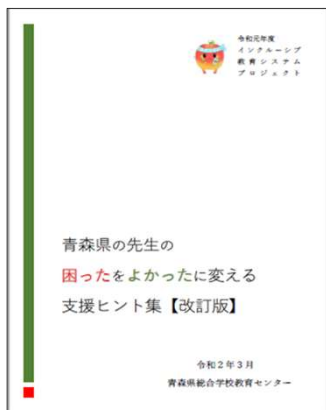
気になる〇〇さんの「よき強み」(ピンク)

「気になる行動や様子(あり)」と「気になる様子や行動の理由(きいろ)」

具体的な支援の手立て(すみどり)

対象児童: \_\_\_\_\_ 作成年月日: \_\_\_\_\_ 年 月 日

## 支援ヒント集



## 演習・協議 (1/5)

①ピンク色の付箋に記入⇒気付いちゃったシートに貼付

気になる〇〇さんの**よさ・強み**を  
挙げてみよう！

今できているところ

できそうなところ

芽生えているところ



## 演習・協議 (2/5)

②青色の付箋に記入⇒気付いちゃったシートに貼付

〇〇さんの**気になる行動や様子**を  
挙げてみよう！

いつ・どこで  
どんな行動？

いつ・どこで  
どんな様子？



## 演習・協議 (3/5)

③黄色の付箋に記入⇒気付いちゃったシートに貼付

〇〇さんの**気になる行動や様子の理由**を考えよう！

※理由は難しく考えず、予想でもOK！

手遊びが多い

↑  
気になる行動

体を動かしていないと  
落ち着かないのかな

↑  
その理由

## 演習・協議 (4/5)

④黄緑色の付箋に記入⇒気付いちゃったシートに貼付

気になる行動や様子の理由を踏まえた  
具体的な**支援の手立て**を考えよう！

※まずは、色々な案を出してみましょう！

体を動かしていないと  
落ち着かないのかな

↑  
気になる行動の理由

「聞き方名人！」  
の指導

↑  
支援の手立て

## 【参考】支援ヒント集を覗いてみましょう！



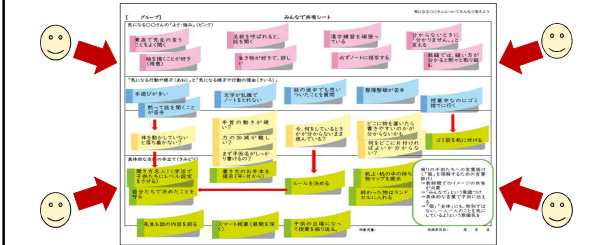
授業中に**落ち着きがない**子供への指導が  
難しい

- 授業中に、子供同士が話し合ったり、自由に移動して交流したりするなど、落ち着かなくてもかまわない活動を意図的に設ける。
- 授業中、気分転換として、伸びや深呼吸の活動を取り入れる。
- 場合によっては、保護者の了承を得て、校内体制を整え、クールダウンできる部屋やスペースを確保する。その際は、担任に許可を得てから移動するなど、ルールを子供と決める。

## 演習・協議 (5/5)

⑤気付いちゃったシートに貼付した付箋を一人ずつ説明しながらみんなで共有シートに貼付し、支援の手立てについて協議する

各々の考えの共有 ⇒ **支援の手立ての明確化**



## 共有

◆各グループで考え出された支援のアイデアを共有

考え出した支援の手立てについて、  
取り組む**優先順位**を決めよう！



## まとめ

- 普段からみんなで共有シートを活用して「気になる〇〇さん」について話題にしましょう！
- 気付いちゃったシートの振り返り（裏面）を活用し、支援の手立ての中で、効果があったものを**継続する**だけでなく、効果が見られなかったものを**次学年に引き継ぐ**ことも大切です！
- みんなで共有シートは写真データを保管し、**いつでも振り返り**ことができるようにしましょう！

## 気付いちゃったシート（裏面）

振り返り(〇月〇日)

取組の結果…(引き継ぎにも使えるように、うまくいかなかったところも残しておこう！)

<うまくいったところ>

<あまりうまくいかなかったところ>

<その他残付き>



グループ

気になる〇〇さんについてみんなで考えよう

## 気付いちゃったシート

学年・対象児童(イニシャル)

年:

- ① 気になる〇〇さんの「よさ・強み」を挙げてみよう(ピンク色の付箋に記入)




- ② 気になる行動や様子(いつ・どこで・どんな行動なのか)を挙げてみよう(青色の付箋に記入)



- ③ 気になる行動や様子の理由を考えてみよう(黄色の付箋に記入)



- ④ 支援の手立てを考えてみよう(黄緑色の付箋に記入)



※個への支援、周りの子供たちへの言葉掛け(個を理解するため(理解を促すため)の言葉かけ)、授業づくり、校内支援体制、他機関との連携 etc

## 振り返り(〇月〇日)

取組の結果…(引き継ぎにも使えるように、うまくいかなかったところも残しておこう!)

〈うまくいったところ〉



〈あまりうまくいかなかったところ〉



〈その他気付き〉



【 グループ 】 みんなで共有シート

気になる〇〇さんの「よさ・強み」(ピンク)

「気になる行動や様子(あお)」と「気になる様子や行動の理由(きいろ)」

具体的な支援の手立て(きみどり)



## 中学校

## 学年を越えたチームで効果的な支援を考えよう

1. 目的 特別な支援を要する生徒に係る1学期のアセスメントを基に、対象生徒に関わる学年を越えた教職員がチームとなって、2学期の支援策について検討、共有する。
- ※対象生徒への支援について、PDCAサイクルを、短期（普段）－中期（学期毎）－長期（1年）とつなげることを意識しましょう。
- ※外部講師による講義や助言を組み込むと、さらに効果的です。例えば、県総合学校教育センターの校内研修等講師派遣事業を活用することができます。
2. 対象 教職員（※夏季休業中の実施を想定した研修モデルです。）
3. 時間 90分（事前5分、講義20分、演習・協議40分、共有10分、助言10分、省察・振り返り5分）
- ※校内外の講師による講義及び助言を省略して、60分で実施することも可能です。
4. 形態 全体（校内外の講師による講義）  
→グループ（対象生徒への支援についてKPT法を使って検討、協議、発表）  
→全体（助言）  
→個人（振り返り）
- ※グループの分け方  
学級担任を含め、対象生徒に関わる学年を越えた教科担任や部活動関係教員等の4人程度のグループを学校の実態に応じて編成
5. 準備物 対象生徒の実態や指導・支援に関する資料  
（1学期に行った支援やその結果等）  
支援ヒント集  
協議用ホワイトボード（各グループに1枚）  
ホワイトボードマーカー  
付箋（青・ピンク・黄色をそれぞれ10枚×人数分）  
黒サインペン（人数分）  
KPTシートまたは模造紙（グループ数分）  
※KPTシートはダウンロードできます。  
KPTシートを貼るためのマグネット（グループ数×4）

## ■研修前

- 研修会の概要等について、予め会議や紙面等で伝達する。
- 準備物、支援を検討する対象生徒及びグループ構成等を決定し、事前に通知する。
- 支援ヒント集を各自印刷したり、タブレットPC等にダウンロードしたりして、当日閲覧できるようにしておく。
- 研修に当たって、対象生徒の実態や指導・支援に関する資料の内容を確認しておく。

## ■研修当日

流れ	進め方	留意点等
<b>1 研修の説明【全体】</b> 対象生徒について考える【個人】 (5分)	○目的、流れなどを確認し、見通しを持つ。 ○対象生徒との関わり方を振り返り、うまくいった支援(青)やうまくいかなかった支援(ピンク)を付箋に記入する。	○付箋を用意する。 ○青は「～する」という文章で書く。ピンクは解釈を入れずに、事実のみを記入する。 ○付箋に記入することで、課題意識を高めるようにする。
<b>2 講義【全体】</b> (20分)	○講義を聞く。 (テーマ例：特別な配慮を必要とする生徒への支援)	○講義内容から、生徒の実態の捉え方や支援方法をイメージする。 ※管理職等に講師を依頼する場合、「スライド②『講義用』」を活用することもできます。
<b>3 演習・協議【グループ】</b> ①講義を踏まえて個人で思考、付箋記入(K、Pについて)(5分) ②付箋貼付、整理・分類(15分) ③個人の思考、付箋記入(Tについて)(5分) ④付箋貼付、整理・分類(15分)	○個人の思考を付箋に書き出す。 ○KPTシートに次の支援ごとに分けて付箋を貼りながら説明する。1学期の生徒の実態を踏まえること。 K・・・うまくいった支援 P・・・うまくいかなかった支援 T・・・学級担任や教科担任等で試したい支援策や解決策 ○生徒の実態の捉え方や支援に対する考えを共有する。	○「流れ1」で記入した付箋も活用する。付箋の内容を簡潔に説明しながら、該当箇所に付箋を貼る。 ○内容が似ている付箋は重ねたり分類したりして、タイトルをつける。 ○Tについては具体的な支援策や解決策を説明する。 ○対象生徒の実態に応じて支援ヒント集を活用する。 ○K、Pに貼付の付箋と関連するTに貼付の付箋を線で結ぶ。
<b>4 共有【全体】</b> ①ポスター発表(5分) ②まとめ(5分)	○グループの発表者が、KPTシートを使いながら協議内容について発表する。発表者以外の方は他グループの発表を聞きに行く。 ○発表者以外の方は、自分のグループに戻り、他グループの発表内容を報告して共有する。	○Tの支援策や解決策を中心に発表する。 ○他グループの発表を踏まえ、支援の見直しや新たな支援を検討する。
<b>5 助言【全体】</b> (10分)	○講師からの助言を聞く。	○助言内容から支援策の留意点を押さえ、具体をイメージする。
<b>6 省察・振り返り【個人】</b> (5分)	○それぞれの立場で、実践する支援の優先順位を決定し、各グループの中で共有する。	○学級担任、教科担任、部活動関係教員等で、予想される効果と着手しやすさから実践する支援策を決定する。

## ■研修後

- 助言や個人での省察・振り返りを踏まえ、学級担任、教科担任、部活動関係教員等のそれぞれの立場で支援を実践する。
- 効果的なTは、次のKとなる。そこから、新しいTを導く。これを繰り返すことで、毎回Tの評価が行われ、効果的にPDCAサイクルを回すことにつながる。

青森県総合学校教育センター  
“これから”の特別支援教育推進校内研修モデル

## 学年を越えたチームで 効果的な支援を考えよう

支援ヒント集を  
用意してください♪

## 研修の流れ

1. 研修の説明 【全体】
2. 講義 【全体】
3. 演習・協議 【グループ】
4. 共有 【全体】
5. 助言 【全体】
6. 省察・振り返り 【個人】

## 1. 研修の説明

### 中学校における課題

- インクルーシブ教育システムの構築に関する研修が十分ではない。
- 特別な配慮を必要とする生徒への支援に関する検討が、学年内教職員に限られることが多い。
- 支援に係るPDCAサイクルがうまくつながっていないことがある。

## 研修の目的

1学期のアセスメントを基に、対象生徒に関わる学年を越えた教職員がチームになって、2学期の支援策について検討、共有する。

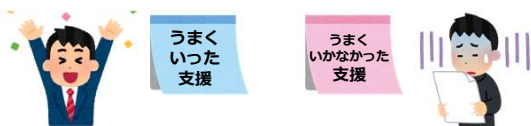
※対象生徒への支援について、PDCAサイクルを、短期（普段）－中期（学期ごと）－長期（1年）とつなげることを意識しましょう。

研修の流れ：全体→グループ→全体→個人

## 対象生徒について考える

- ◆青色とピンク色の付箋に以下のように記入する

対象生徒との関わり方を振り返り、**うまくいった支援**と**うまくいかなかった支援**を考えてみよう。



## 2. 講義

(テーマ例)

### 特別な配慮を必要とする生徒への支援

- 特別支援教育の視点を取り入れた教室環境や授業づくりの工夫
- 特別な配慮を必要とする生徒の行動の捉え方
- 支援を考えたときのポイント



※講義用スライド資料はダウンロードできます

### 3. 演習・協議 (1/4)

#### ◆グループ内で役割分担をする

- ・司会者、記録者、発表者

#### ①個人の思考、付箋記入 (5分)

- ・青色とピンク色の付箋に以下のように記入する

講義内容を踏まえて、対象生徒との関わり方を改めて振り返り、**うまくいった支援(K)**と**うまくいかなかった支援(P)**を書き足す

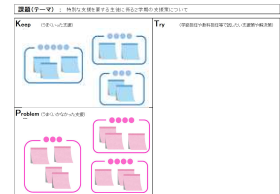


6

### 3. 演習・協議 (2/4)

#### ②付箋貼付、整理・分類

- ・付箋をK P Tシートに貼りながら説明する (一人3分程度)
- ・内容的に近いものを重ねたり分類したりして、タイトルを付ける (3分)



7

### 3. 演習・協議 (3/4)

#### ③個人の思考、付箋記入 (5分)

- ・黄色の付箋にTについて記入する

試したい支援策や解決策を考えよう



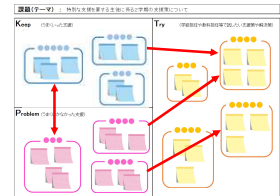
試したい 支援策 解決策

8

### 3. 演習・協議 (4/4)

#### ④付箋貼付、整理・分類

- ・付箋をK P Tシートに貼りながら説明する (一人3分程度)
- ・関連する付箋を矢印等で結び、整理する (3分)



9

## 4. 共有

#### ①ポスター発表 (5分)

- ・グループの発表者が、K P Tシートを使いながら協議内容について発表する
- ・発表者以外の人他グループの発表を聞きに行く



#### ②まとめ (5分)

- ・発表者以外の人、自分のグループに戻り、他グループの発表で聞いてきた内容を報告して共有する

10

## 5. 助言

- ◆講師の助言から支援策の留意点を押さえ、具体をイメージする



11

## 6. 省察・振り返り

- ◆それぞれの立場で、実践する支援の優先順位を決定し、各グループの中で共有する

予想される効果と着手しやすさから、**実践する支援策**を決めよう！



12

## 支援ヒント集の活用等 (1/4)

- ・職員会議や学年会議、ケース会議等、様々な場に持ち込んで、対象生徒の支援について、「鍵となる考え方や支援策」を共有し、学校全体で組織的に活用していこう！
- ・対象生徒の実態や有効な支援等に関するページに**どんどんメモ**を書き込んで、自分のものにしよう！

13

## 支援ヒント集の活用等 (2/4)

- ◆それぞれの**職務**に応じて活用しよう！

### 〈学級担任〉

生徒の対応に「困ったな」と感じたときのヒントに

### 〈学年主任〉

学年で生徒の支援策を考えるヒントに

### 〈養護教諭〉

生徒や教職員の悩みや不安に寄り添うヒントに

### 〈研修主任〉

事例検討の際、検討のプロセスの参考に

14

## 支援ヒント集の活用等 (3/4)

- ◆それぞれの**職務**に応じて活用しよう！

### 〈特別支援コーディネーター〉

- ・生徒への配慮事項を考える際の参考や事例を挙げるときに  
(生徒の様子の例)  
\*授業などのルールが分かっていない  
\*相手の気持ちを推し量ることができない  
\*周りのやりとりについていけない
- ・子供理解を深めるために活用  
(例) P.31~ 自閉症スペクトラム障害当事者の声より  
(視覚過敏とは？ 文章読解・運動能力の困難とは？)

15

## 支援ヒント集の活用等 (4/4)

- ◆**個別の教育支援計画**と**個別の指導計画**の作成に活用しよう！ (「合理的配慮」や「手立て」の欄)

個別の教育支援計画			
氏名	性別	学年	担当

個別の指導計画	
氏名	担当

16






青森県総合学校教育センター  
「これから」の特別支援教育推進校内研修モデル

講義


## 特別な配慮を必要とする 生徒への支援



支援ヒント集を  
用意してください

## 特別支援教育の理解の必要性

通常の学級にも、障害のある生徒のみならず、教育上特別の支援を必要とする生徒が在籍している可能性があることを前提に、全ての教職員が特別支援教育の目的や意義について十分に理解することが不可欠である。



中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編

## 中学校学習指導要領解説（平成29年7月）

総則編 第4節 生徒の発達の支援  
2 特別な配慮を必要とする生徒への指導  
(1) 障害のある生徒などへの指導  
① 生徒の障害の状態等に応じた指導の工夫

（中略）また、集団指導において、障害のある生徒など一人一人の特性等に応じた必要な配慮等を行う際は、教師の理解の在り方や指導の姿勢が、学級内の生徒に大きく影響することに十分留意し、学級内において温かい人間関係づくりに努めながら、**「特別な支援の必要性」の理解を進め、互いの特徴を認め合い、支え合う関係を築いていくことが大切**である。

## 発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン

文部科学省

- ・**教育上特別の支援を必要とする児童等だけでなく、全ての児童等にとって「分かる、できる、楽しい授業」に**
- ・個別の支援について、周囲の児童等に説明を行う際は、困難さや苦手さについて理解を求めのみでなく、その児童等の良さや頑張り等の良い面を積極的に伝える

## 学級づくり、環境整備の工夫

- 理解のゆっくりさや失敗をからかう雰囲気がなく、お互いにサポートし合うようなクラスづくりがなされている
- 学習の約束事（休み時間の間に次時の授業の準備等）を決めている
- 集中を妨げる可能性のある音や目に入る物などを調整している
- 黒板やまわりの掲示は、余計な情報（授業に関係のない情報）がない状態になっている
- 共有で使う物の置き方や場所が決まっている
- 授業の流れや活動の手順を提示するなど、見通しがもてる工夫をしている

青森県総合学校教育センター「授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた『授業チェックシート』」

## 授業づくりの工夫①

- 本時のねらいや活動を絞り、生徒にしっかりと伝えている
- 注目することを促してから指示を出している
- 1回の指示で一つの内容を伝えている
- 「これ」「それ」「あれ」「どれ」等の抽象的な表現を避け、具体的に指示している
- 授業の最後に1時間で学習した内容を整理し確認している
- 生徒の活動に対して「いいね」「よくできたね」等の肯定的な言葉をかけている
- 絵や図等の視覚的な手がかりを用意している
- 板書の文字（大きさ）、チョークの色、配置等を工夫している

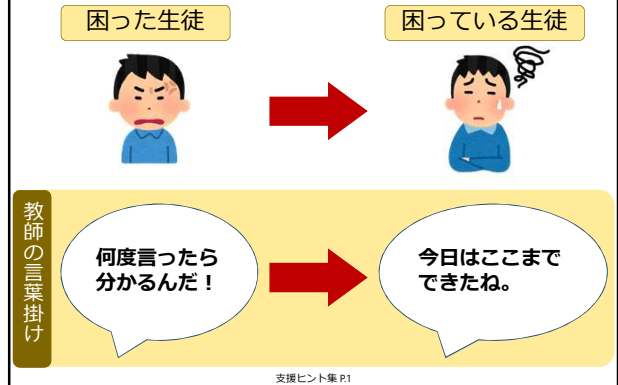
青森県総合学校教育センター「授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた『授業チェックシート』」

## 授業づくりの工夫②

- 言葉だけの説明ではなく、図示する、演じる等の方法を用いて、理解を促す工夫をしている
- ねらいに沿った授業の進め方や体験の内容など、授業の展開が工夫されている
- 達成までのプロセスに細やかな段階がある
- ペア学習やグループ学習等の活動を取り入れ、学び合う機会を設けている
- 教科の系統性を利用して、前の段階では理解が十分でなかったことや、再度確認を行う必要があることなどついて、復習する機会を設けている
- 学んだことを別の課題に適用したり、実生活で活用したりすることができるような工夫をしている

青森県総合学校教育センター「授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた『授業チェックシート』」

## かかわる側が見方・考え方を考える



## 例：グループ活動への参加が難しい生徒 (1/2)

The illustration shows a student in the center looking confused, surrounded by speech bubbles containing musical notes. To the left, a speech bubble says '相手の気持ちを考えない発言をしたり、一方的に話し続けたり...'. To the right, another says '他の生徒と全く関わろうとしないんです...'. Below the illustration, a yellow box contains the following text:

✓その生徒なりの理由やきっかけが必ずあります

✓中学校段階であれば、本人に困っていることがないか尋ねてみてもよいでしょう

**困った行動の理由**

- グループ活動で何をしたらよいのかわからない？
- 相手の気持ちを推し量ることができない？
- 集団での活動への不安がある？
- 周りのやりとりについていけない？

支援ヒント集 P7

## 例：グループ活動への参加が難しい生徒 (2/2)

**支援の視点**

- 事前に手順や役割を示す
- かわり方のルールを教える
- 参加しやすい環境づくりをする
- 相手に配慮した伝え方をする

**【支援例】**

- ✓座席の配置や、グループメンバーなどを工夫して、本人がよりよく周囲と関わることができるグループ編成を考える。
- ✓話し合いやすい話題や課題を意図的に掲げ、議論したり、教え合ったり、認め合ったりする機会を設ける。
- ✓グループでの活動について振り返る時間を設け、うまくいった点やこうすればもっと良かった点などについて話し合い、お互い認め合えるような雰囲気をつくる。

支援ヒント集 P8

## 支援を考えたときのポイント

- 問題となっている行動の理由やきっかけに注目する
- それに応じて、子供を変えようとするのではなく、周囲の環境（人、物、ルール等）を調整する

### 合理的配慮の考え方

- 合理的配慮は、障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応することが求められるものです。
- 学校における合理的配慮については、支援ヒント集P.25~26を参照ください。

課題(テーマ) : 特別な支援を要する生徒に係る2学期の支援策について	グループ
<b>Keep</b> (うまくいった支援)	<b>Try</b> (学級担任や教科担任等で試したい支援策や解決策)
<b>Problem</b> (うまくいかなかった支援)	



## 高等学校

## 組織的支援につなげよう

～事例「課題の提出期限を守れない生徒」への支援を考える～

- |        |   |
|--------|---|
| 1. 目的  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の経験則に基づき対応してきた特別支援教育に係る課題を、支援ヒント集を利活用しながら学校全体で共有し、教員間の協働を通して解決に取り組む機会を設ける。</li> <li>・既存の諸会議を利用し、組織的な支援につなげる。</li> </ul> |
| 2. 対象  | 教職員   |
| 3. 時間  | ステップ1：30分<br>(必要に応じて)<br>ステップ2：25分<br>ステップ3：20分<br><br>※ステップ1～3は、それぞれ別日に設定することを想定しています。   |
| 4. 形態  | ステップ1：教科会議及び学年(科)会議でのKPT(ケプト)法を用いた演習・協議<br>(必要に応じて)<br>ステップ2：成績会議等の学年(科)拡大会議での共有<br>ステップ3：職員会議における校内共通の取組への展開<br><br>※校内研修として、ステップ1のみを実施することも可能です。                |
| 5. 準備物 | <input type="checkbox"/> 支援ヒント集 (ステップ1の前に全員に配付)<br><input type="checkbox"/> KPTシート (A3) ※詳細は次ページに記載<br><input type="checkbox"/> 付箋 ※詳細は次ページに記載                    |

## ■研修前

- 研修会の概要等について、予め会議や紙面等で伝達する。ステップ1では、事前に個人の思考をある程度まとめておくよう依頼する。
- 準備物やグループ構成等を決定し、事前に通知する。
- 支援ヒント集を各自印刷したり、タブレットPC等にダウンロードしたりして、当日閲覧できるようにしておく。

## ■研修当日

### ステップ1：【教科会議】及び【学年会議】での演習・協議

流れ	進め方	留意点等
1 研修の説明 (5分)	○研修の目的、流れ、時間を確認して、見通しを持つ。	○目的：上記「1. 目的」参照 ○流れ：左欄「流れ」参照
2 演習・協議	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>【教科会議で実施する場合】</b> 支援ヒント集の事例4「課題の提出期限を守れない生徒」(P.27)をテーマにKPT法を用いて分析する。視点は教科担当者とする。 ・KPTシートは1教科1枚 ・付箋は1学年ピンク色、2学年青色、3学年黄色、過去の事例は緑色など色分けをしてもよい</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>【学年会議で実施する場合】</b> 同テーマをKPT法により分析する。視点は学年主任及び担任とする。 ・ケプト用紙は学年1枚 ・付箋はホームルーム担任毎や、担任と学年主任など色分けをしてもよい</p> </div> </div> </div>	
①付箋に記入 (5分)	○個人の思考を付箋に書き出す。	○K、Tに焦点を当てて付箋記入及び協議を進める。
②付箋の貼付 (7分)	○KPTシートに付箋を貼りながら説明する。	○付箋の内容を簡潔に説明しながら、該当箇所(K、P、T)に付箋を貼る。付箋の内容が似ているものは重ねたり分類したりしていく。
③協議 (8分)	○生徒の実態の捉え方や支援に対する考えを共有する。	○対応における共通点や相違点を教科内等で確認する。 ○先輩教員の過去の事例を共有する時間を設け、現状の改善につながる方策を探る。
3 まとめ (5分)	○個人の振り返りを行う。 ○支援ヒント集の活用について説明する。	○協議を通して新たに気付いたり考えたりしたことを振り返る。 ○支援ヒント集を活用しながら、他の方策を模索する。
<p>※早急に組織的な対応が必要な生徒への支援方法を協議した場合や研修成果を全校に広げたい場合等は、ステップ2、3の実施を検討する。実施する際は、事前に学年拡大会議において報告する内容の共通理解を図っておくとよい。</p>		

## ステップ2：【学年拡大会議】での共有

<p><b>1 共有</b></p> <p>①各教科及び学年発表 (10分)</p> <p>②分析・整理 (10分)</p>	<p>○各教科及び学年の代表者が、協議内容について発表する。</p> <p>○共有した内容を分析・整理し、学年としての今後の支援の方向性等を明らかにする。</p>	<p>※研修の目的、流れ、時間は事前に通知しておく。</p> <p>○状況に応じて、プロジェクターや実物投影機を使用して進めてもよい。</p> <p>○ステップ1で検討したK、Tを中心に発表する。</p> <p>○発表内容を踏まえて、共通点や相違点を分析し、学年全体として共通して実施できる支援策を整理する。</p>
<p><b>2 まとめ</b> (5分)</p>	<p>○研修の成果を全体で確認する。</p>	<p>○(ステップ3を実施する場合)職員会議において報告する内容の共通理解を図る。</p>

## ステップ3：【職員会議】での共有

<p><b>1 共有</b></p> <p>①各学年発表 (10分)</p> <p>②質疑応答 (5分)</p>	<p>○各学年の代表者が、協議内容について発表し、全体で共有する。</p> <p>○他学年の教員等からの質問や意見を集約し、支援策に対する共通理解を図る。</p>	<p>※研修の目的、流れ、時間は事前に通知しておく。</p> <p>○状況に応じて、プロジェクターや実物投影機を使用して進めてもよい。</p> <p>○ステップ2で整理した「学年全体として共通して実施できる支援策」を中心に発表する。</p> <p>○学校全体として共通して実施する支援策を確認する。</p>
<p><b>2 省察【個人】</b> (5分)</p>	<p>○これまでの研修での学びを振り返り、実践につなげる。</p>	<p>○省察の視点(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な配慮が必要な生徒への支援について新たに気付いたことや考えたこと</li> <li>・特別支援教育の推進に向けて、個人及び組織として、今後取り組むべきこと</li> </ul>

## ■研修後

- 個人での省察を踏まえて、再度教科や学年ごとに目指す生徒の姿を見直す。
- 学校全体で組織的な支援に向けた縦と横の連携について検討を続ける。
- 生徒の実態に応じて、別な事例を設定して、再度ステップ1から研修を行う。





青森県総合学校教育センター  
「これから」の特別支援教育推進校内研修モデル

## 組織的支援につなげよう

事例「課題の提出期限を守れない生徒」への支援を考える

支援ヒント集を  
用意してください♪

1

## 特別支援教育とは

困った生徒

困っている生徒

先生方が「困った」と感じている「気になる生徒」は、先生方を「困らせたい」と思っているわけではないのです。誰よりも「困っている」のは本人たちです。

通常の学級における特別支援教育とは、決して「特別な」教育なのではありません。目の前にいる一人一人の子供の「もっと学びたい」思いを見つめ、一人一人の教育的ニーズにこたえる教育です。

支援ヒント集 P1

2

## 高等学校における課題

課題：組織的な支援にまで至らず、教員が一人で抱えがちである。

↓

自己の経験から実践して良かったことや課題等について教員間で話し合い、生徒一人一人のニーズに応じた組織的な支援につなげたい。

3

## 研修の目的

- 教員の経験則に基づき対応してきた特別支援教育に係る課題を、支援ヒント集を利活用しながら学校全体で共有し、教員間の協働を通して解決に取り組む機会を設ける。
- 既存の諸会議を利用し、組織的な支援につなげる。

4

## 研修の流れ

◆ステップ1  
教科会議・学年会議での演習・協議

↓

**必要に応じて！**

- ・ 早急に組織的な対応が必要な生徒への支援方法を協議した場合
- ・ 研修成果を全校に広げたい場合 など

◆ステップ2  
成績会議等の学年（科）拡大会議での共有

◆ステップ3  
職員会議における校内共通の取組への展開

5

## ステップ1

### 教科会議・学年会議での演習・協議

事例「課題の提出期限を守れない生徒」への支援を考える

6

## 協議の流れ

1. 研修の説明
2. KPTシートを用いた演習・協議
  - ・付箋に記入、貼付
  - ・グループ協議
3. まとめ
  - ・振り返り
  - ・情報提供



7

## KPT法とは

- ◆ 前向きで段階的な振り返りの手法

**Keep** : 良かったこと・継続したいこと  
**Problem** : 課題となっていること・やめること  
**Try** : 課題の解決策・今後挑戦すること

★ポイント : **K**から考え始める  
**P**だけにフォーカスしない

8

## KPT法の手順

課題(テーマ) : 課題の理由や問題を考えたい内容について	
Keep (良かったこと・継続したいこと)	Try (課題の解決策・今後挑戦すること)
Problem (課題)	

### 【手順】

- ① 個人の思考、付箋記入  
 ※付箋の色は担当者毎に変えてもよい
- ② 付箋の貼付
- ③ 協議

9

## 共有と振り返り

- ・対応における共通点や相違点を教科内等で確認する。
- ・先輩教員の過去の事例を共有する時間を設け、現状の改善につながる方策を探る。



振り返り

新たな発想や視点は見つかりましたか？

10

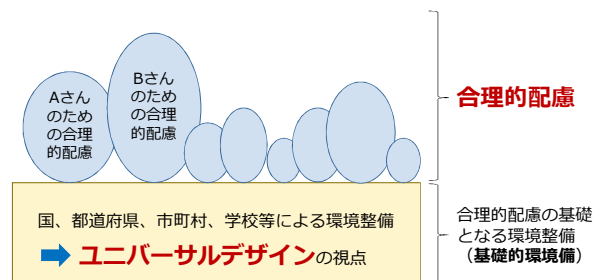
## 支援ヒント集を確認してみましょう

P.27～ 事例「課題の提出期限が守れないDさん」



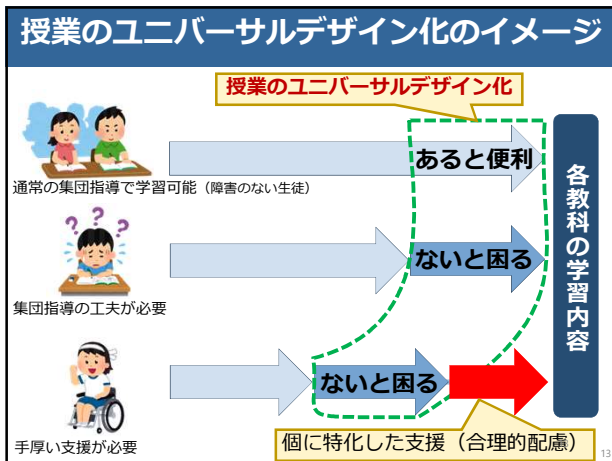
11

## 合理的配慮と基礎的整備の関係



支援ヒント集 P.25～26

12



- ### 学級づくり、環境整備の工夫
- 理解のゆっくりさや失敗をからかう雰囲気がなく、お互いにサポートし合うようなクラスづくりがなされている
  - 学習の約束事（休み時間の中に次時の授業の準備等）を決めている
  - 集中を妨げる可能性のある音や目に入る物などを調整している
  - 黒板やまわりの掲示は、余計な情報（授業に関係のない情報）がない状態になっている
  - 共有で使う物の置き方や場所が決まっている
  - 授業の流れや活動の手順を提示するなど、見通しがもてる工夫をしている
- 青森県総合学校教育センター「授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた『授業チェックシート』」

- ### 授業づくりの工夫①
- 本時のねらいや活動を絞り、生徒にしっかりと伝えている
  - 注目することを促してから指示を出している
  - 1回の指示で一つの内容を伝えている
  - 「これ」「それ」「あれ」「どれ」等の抽象的な表現を避け、具体的に指示している
  - 授業の最後に1時間で学習した内容を整理し確認している
  - 生徒の活動に対して「いいね」「よくできたね」等の肯定的な言葉をかけている
  - 絵や図等の視覚的な手がかりを用意している
  - 板書の文字（大きさ）、チョークの色、配置等を工夫している
- 青森県総合学校教育センター「授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた『授業チェックシート』」

- ### 授業づくりの工夫②
- 言葉だけの説明ではなく、図示する、演じる等の方法を用いて、理解を促す工夫をしている
  - ねらいに沿った授業の進め方や体験の内容など、授業の展開が工夫されている
  - 達成までのプロセスに細やかな段階がある
  - ペア学習やグループ学習等の活動を取り入れ、学び合う機会を設けている
  - 教科の系統性を利用して、前の段階では理解が十分でなかったことや、再度確認を行う必要があることなどついて、復習する機会を設けている
  - 学んだことを別の課題に適用したり、実生活で活用したりすることができるような工夫をしている
- 青森県総合学校教育センター「授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた『授業チェックシート』」

- ### 高校学校における合理的配慮
- ・ 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（講義動画）
    - 高等学校における発達障害のある生徒の指導・支援
 

[http://cpedd.nise.go.jp/videos/videos/view/5013/676d1fb9f74620f31797a9813a6c1d5?frame\\_id=4735](http://cpedd.nise.go.jp/videos/videos/view/5013/676d1fb9f74620f31797a9813a6c1d5?frame_id=4735)
    - 高等学校における合理的配慮
 

[http://cpedd.nise.go.jp/videos/videos/view/5013/6348986fc3e4f90bae53d12fa608a16a?frame\\_id=4735](http://cpedd.nise.go.jp/videos/videos/view/5013/6348986fc3e4f90bae53d12fa608a16a?frame_id=4735)
  - ・ 大分県教育委員会「大分県公立高等学校における合理的配慮の提供」（リーフレット）
 

<https://www.pref.ota.jp/uploaded/attachment/2017138.pdf>

### まとめ

「問題対応型」から  
生徒の実態や学校・ホームルームの実情  
に応じた「**組織的支援**」へ

## ステップ2

### 拡大学年会議での共有

事例「課題の提出期限を守れない生徒」への支援を考える

19

## 情報共有の流れ

### 1. 各教科及び学年の代表者による発表

- ・ステップ1でのK、Tを中心に発表

### 2. 共有した情報の分析・整理

- ・共通点⇒学年で着手しやすい支援策
- 相違点⇒共通理解を図る必要がある事項
- ・学年全体として共通して実施できる支援策を整理

### 3. まとめ

- ・振り返り、情報提供



20

## 【情報提供】支援ヒント集の紹介

(例えば、こんな事例が掲載されています)

### 「課題の提出期限を守れないDさん」への支援

保護者との連携は?

校内支援体制は?



個への支援は?

他機関連携は?

環境設定は?

支援ヒント集を活用して、**組織的・計画的・継続的な支援**を目指しましょう

21

## ステップ3

### 職員会議における校内共通の取組への展開

事例「課題の提出期限を守れない生徒」への支援を考える

22

## 情報共有の流れ

### 1. 各学年の代表者による発表

- ・ステップ2での「学年全体として共通して実施できる支援策」を中心に発表

### 2. 質疑応答

### 3. 省察（個人）

- ・特別な配慮が必要な生徒への支援について新たに気付いたことや考えたこと
- ・特別支援教育の推進に向けて、個人及び組織として、今後取り組むべきこと など



23

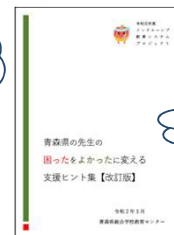
## 【情報提供】支援ヒント集の紹介

(例えば、こんな事例が掲載されています)

### 「課題の提出期限を守れないDさん」への支援

保護者との連携は?

校内支援体制は?



個への支援は?

他機関連携は?

環境設定は?

支援ヒント集を活用して、**組織的・計画的・継続的な支援**を目指しましょう

24

課題(テーマ) : 課題の提出期限を守れない生徒について		グループ
<b>Keep</b> (効果があったと感じたこと・継続したいこと)	<b>Try</b> (今後実践したいこと)	
<b>Problem</b> (課題・問題点)		



活用してみませんか？

“これから”の特別支援教育推進校内研修モデル

本プロジェクトは、平成29年度に、通常の学級の先生が抱える、特別支援教育における課題を解決するための支援のヒントをまとめた小冊子「青森県の先生の困ったをよかったに変える支援ヒント集」（以下、「支援ヒント集」）を作成し、令和元年度には事例等を追加した改訂版を作成しました。  
 令和2年度は、支援ヒント集を効果的に活用して、小・中学校及び高等学校における特別な教育的ニーズのある児童生徒への組織的な指導・支援につなげる校内研修モデル「これから」の特別支援教育推進校内研修モデルを開発しました。そして、小・中学校、高等学校の教員を対象にした校内研修モデルの検証活動も行い、その効果を明らかにしました。  
 本校内研修モデルを活用して、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた「組織的・計画的・継続的」な支援をみんな考えて考えませんか。

これまでの研修

概論は分かったけれど、明日からの支援は思いつかなかったなあ

「この支援でいいのかなあ」という不安はあまり解消されなかった...

単発の研修会で終わりがち

この研修モデルを使うと...

見えた！支援の「はじめの一歩」

チーム支援って心強い！

次につなげる、つなげる支援の輪！

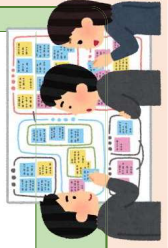


(校内研修モデル例)  
 気になる○○さんについてみんなで考えよう

- ▶ 小グループでの演習・協議を行う
  1. 気になる○○さんのよさ・強みを挙げる
  2. ○○さんの気になる行動や様子を挙げる
  3. ○○さんの気になる行動や様子の理由を考える
  4. 具体的な支援の手立てのアイデアを出し合う
- ▶ 支援のアイデアを全体で共有する

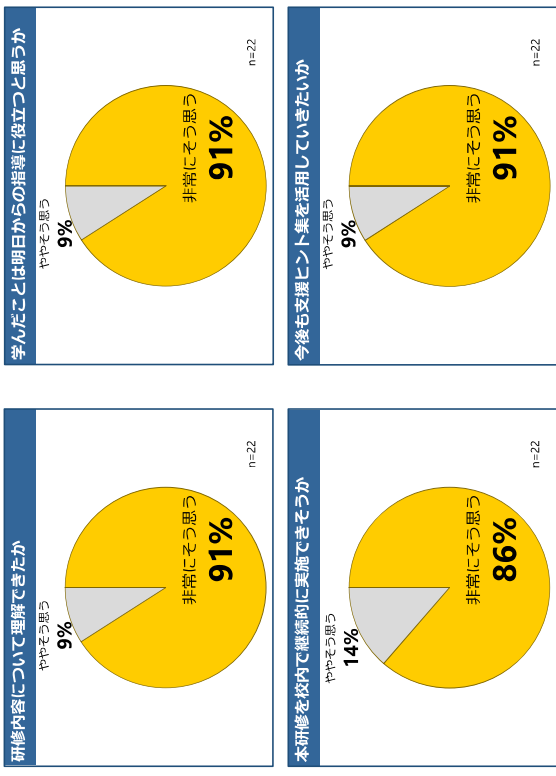


※本校内研修モデルで使用する支援ヒント集は、当センターのホームページからダウンロードできます。



校内研修モデルの検証結果

検証活動として、校内研修等講師派遣事業で、本校内研修モデルを使って演習・協議を行い、終了後、受講者にアンケートを行いました。ここでは、中学校2校での検証結果の一部を紹介します。



※今後も、校内研修等講師派遣事業を活用して、本校内研修モデルによる研修を実施することができます。当センターのホームページからお申し込みください。

本校内研修モデルの詳細については、コチラをチェック♪

[http://ts.edu-c.pref.aomori.jp/index.php?page\\_id=20](http://ts.edu-c.pref.aomori.jp/index.php?page_id=20)



研修の企画に使える「プランシート」、  
 当日の説明等でそのまま使える「スライド資料」、  
 演習で使う「ワークシート」をダウンロードできます



発行元 青森県総合学校教育センター  
 〒030-0123  
 青森県青森市大字大矢字野田80-2  
 TEL:017-764-1993 FAX:017-764-1992  
 (令和3年3月発行)

# 校内研修モデル「3つの活用事例」



児童生徒の情報交換会はあるけれど、子供の実態や困った行動の共有で毎回終わっちゃう。支援策まで共有するにはどうしたらいいの？



時間がなくても全員で「気になる子供」についての情報を共有し、気になる行動の理由を考え、明日から実践できる支援の手立てを考え出すための校内研修モデルを紹介します！




**校内研修モデル①**  
「気になる〇〇さんについてみんなで考えよう」を実施しました！




子供の思いや困り感に寄り添って、子供の目線、立場に立って考え、支援することの大切さを感じました。また、子供自身が自分の苦手なこと、配慮してほしいことを理解し、周りに伝える力を育てることが必要だと分かりました。




子供についての情報の共有、できたこと、できていないことの確認が子供の理解や指導の明確化につながっていくと感じました。演習で、その第一歩が踏み出せたと思うので、次の一歩につなげていくことができればと思います。




教師が集まってインクルーシブ教育システムの構築について研修する時間が少ないなあ。まだ知らないこと、分かったつもりになっていることが結構あるかも。




特別な支援を要する子供に係る1学期のアセスメントを基に、対象の子供に関わる学年を越えた教職員がチームになって2学期の支援策について検討・共有することを目的とした校内研修モデルを紹介します！



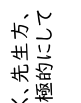
**校内研修モデル②**  
「学年を越えたチームで効果的な支援を考えよう」を実施しました！




言葉かけや発想の転換で子供に対しての自分の気持ちも変わるし、これまで見えていなかった子供の姿も見えてくるということに気づきました。




言葉かけや発想の転換で子供に対しての自分の気持ちも変わるし、これまで見えていなかった子供の姿も見えてくるということに気づきました。




養護教諭として遠慮するのではなく、先生方、子供たちのためにも、情報共有を積極的に行いたいと思います。




学級担任や教科担任が一人で考えても...、組織的な対応にいかない、解決につながらない気がするなあ。




自己の経験から実践して良かったことや課題等について話し合い、子供一人一人のニーズに応じた組織的な支援につなげることを目的とした校内研修モデルを紹介します！



**校内研修モデル③**  
「組織的支援につなげよう」を実施しました！



一人で対応するわけではなく、チームで支援することが大事だと分かりました。



課題の提出についても、職員間での情報共有などの連携が必要であると感じました。



## 令和2年度 研究体制

◎プロジェクト統括 ○リーダー

◎矢野 久光（特別支援教育課長）

○森山 貴史（特別支援教育課 指導主事）

### 【小学校チーム】

平井 裕（義務教育課 指導主事）  
高橋 妹子（特別支援教育課 指導主事）  
山形ひとみ（特別支援教育課 研究員）  
古舘 泰史（教育相談課 研究員）

### 【中学校チーム】

木村 勇也（義務教育課 指導主事）  
西村 章華（義務教育課 研究員）  
田中 輝一（産業教育課 研究員）  
對馬 綾子（教育相談課 研究員）

### 【高等学校チーム】

木村 智子（高校教育課 指導主事）  
大嶋 晃子（高校教育課 指導主事）  
成田 大志（産業教育課 指導主事）  
菊池 理子（教育相談課 指導主事）

令和2年度インクルーシブ教育システムプロジェクト  
研究成果報告書

冊子『青森県の先生の「困った」を「よかった」に変える  
支援ヒント集【改訂版】』を活用した校内研修モデルの開発

令和3年3月

著作 青森県総合学校教育センター

発行 青森県総合学校教育センター

〒030-0123

青森県青森市大字大矢沢字野田 80-2

TEL: 017-764-1993

FAX: 017-764-1992